

高速で普通紙に記録できるG3レーザ記録ファクシミリ—“HIFAX52M1W/M2W”—

オフィスの必需品となりつつあるファクシミリは、すでにビジネス分野市場で高い普及率を示しており、ユーザーニーズは次のステップとして高付加価値製品を求めている。中でも最近特に望まれているのが、普通紙記録・高速電送形のファクシミリである。

今回発売した“HIFAX52M1W/M2W”は、CCITT標準モードによって6秒電送が可能な普及形レーザ記録(2段給紙カセット)タイプで、最近求められている最も重要な要素を二つ合わせ持った製品である(図1)。

1. 主な特長

(1) 高速6秒電送

CCITT標準ECM M²Rモードを用い、14.4kビット/sの高性能モデムを介して、同一機能を持っていれば相手機のメーカーや機種を問わず高速6秒電送ができ、業務効率の向上と通信費の節減が可能である。

(2) 大量給紙(2段給紙)

上下各カセットはそれぞれ250枚の記録紙が収容でき、計500枚セットが可能なので、夜間や休日の大量受信時でも対応できる。

また、上下それぞれにA4・A5・B4・B5判用紙の中から自由にセット可能で、受信の際には、相手送信原稿に合わせて最適なサイズを自動選択する。

(3) レーザ普通紙記録

レーザビームを用いた普通紙(カット紙)記録で、変色や退色などがなく、保存性に優れている。

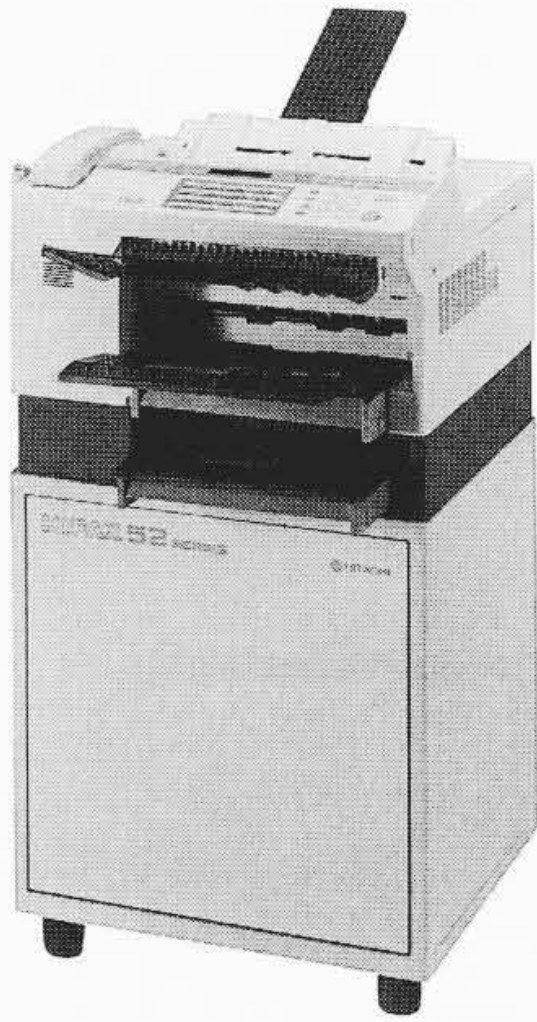


図1 G3レーザ記録ファクシミリ“HIFAX52M2W”

2. 主な仕様

HIFAX52M1W/M2Wの主な仕様を表1に示す。

(日立製作所 情報通信事業部)

表1 主な仕様

項目	仕様
原稿サイズ	JIS A3判
走査線密度	8×15.4, 7.7, 3.85本/mm
伝送速度	14.4, 12.0, 9.6, 7.2, 4.8, 2.4kビット/s
符号化方式	MH・MR・M ² R
電送時間*	CCITT標準ECM M ² R: 6s
メモリ容量	MIW: 1/4 Mバイト (ECM ON 1/8 Mバイト) M2W: 1 Mバイト (ECM ON 7/8 Mバイト)
寸法	幅520×奥行495×高さ374(mm)
質量	約27kg

注: * 日立A4判標準原稿線密度8×3.85本/mm, 伝送速度14.4kビット/sで送信したときの画情報の伝送時間

本体標準価格(税別)
HIFAX52MIW 880,000円
HIFAX52M2W 950,000円
標準据付調整費(税別) 各30,000円

読取り速度・操作性の向上を図った高性能OCRシステム—「5000シリーズ」—

卓上サイズの小型OCRの出現により、昭和60年度以降のOCR市場は急成長を続けている。保険業界を中心とした分散利用での大量導入に加え、製造・流通・自治体などの一般市場でも入力ネックの解消手段として優れるOCRへのニーズは強くなりつつある。最近では、より効率的な運用を目指して、高性能化、エラー修正などでの操作性の向上が求められている。

今回開発したOCRシステム「5000シリーズ」は、主に大量データの一括入力を行うスタンドアロン利用を目的とする高性能OCRであり、卓上サイズのOCRとしてはクラス最高の読取り速度(約270枚/分: A8・10字)を実現している。また、エラー修正時の操作性を大幅に向上できる電子修正機能をはじめとする数々の新機能を備え、効率的な運用を図ることができる。

1. 主な特長

(1) ドキュメントリーダ・ページリーダの一台二役、しかもトップクラスの高性能

検針票や入金票など、比較的小形の大量帳票をドキュメントリーダとしてはクラス最高の約270枚/分(A8・10字)

で読取り可能である。また、申込書、注文書など、大形の汎(はん)用帳票(最大B4)を読み取れるページリーダとしては、トップクラスの約60枚/分(A5・100字)の読取り速度を実現している。

(2) データ修正を大幅に効率化できる電子修正機能を支援

データ修正(即時修正・バッチ修正)時には、修正文字を含む修正フィールド全体のイメージ表示および関連する欄(例: 品名コードと品名欄)のイメージ表示が可能であり、実帳票による確認を行うことなく効率的な修正を行える。

(3) 利用目的、データ量に合わせて選択できるシリーズ化

標準モデル(5050)、高速モデル(5070)の2モデルをデータ量によって選択可能である。また標準モデルは、ドキュメントリーダ機能を目的に応じて選択できる。

(4) 青系色帳票でも一般ボールペンの利用が可能

統一伝票などの青系色帳票での一般ボールペン利用は、一

部の大形機に限定されていたが新スキャナ技術の開発によって可能とした。

2. 主な仕様

OCRシステム5000シリーズの主な仕様を表1に示す。

(日立製作所 コンピュータ事業部)

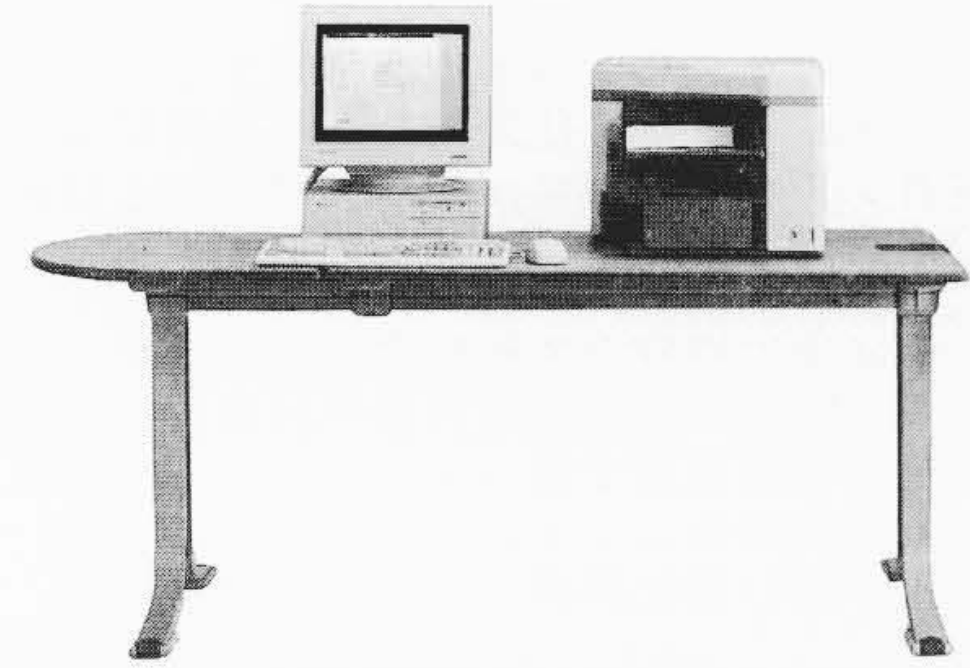


図1 日立OCRシステム5000シリーズ

表1 主な仕様

項目		5070	5050
処理速度	A8・10字	約270枚/min(ドキュメントモード時)	
	A5・100字	約60枚/min	約35枚/min
帳票	寸法	A8~B4	
	紙質	上質紙: 45~135kg紙 PPC用紙, 再生紙	
読取り文字種	手書き	数字, 英字, 記号, 片仮名	
	活字	OCR-B, KおよびMICR(E13B), ほか	
寸法・質量(読取り部)		寸法: 幅500×460×370(mm), 質量: 45kg	
所要電力(含 制御部)		読取り部: 600VA, 制御部: 400VA	

本体標準価格(税別)
5070 7,000,000円から(ドキュメントリーダ機能付き)
5050 4,800,000円から(ドキュメントリーダ機能なし)
5050 5,700,000円から(ドキュメントリーダ機能付き)

水中に懸濁する物質の監視装置

1. 本発明の背景

浄水場では、水中に懸濁する物質の粒径が小さいので、凝集剤を入れてフロック(凝集塊)にして沈降させ除去している。

フロックの形成状態は監視員が目視で判断しており、この判断結果に基づいて凝集剤の注入量、パドルの回転数などをコントロールしている。

このように監視員が目視でフロックの形成状態を判断するために、連続監

視ができない、判断があいまいで非定量的であるなどの問題があり、自動化ができなかった。

2. 本発明の概要

フロックの形成状態を監視員の目視によらずに定量的に判断し、自動化を可能にするために、本発明の監視装置(図1)は、水面下に撮像手段を設置して水中懸濁物質の状態を撮像し、その画像情報を取り込むようにした。

この撮像手段によって取り込んだ画

像情報を2値化手段によって2値化処理して、懸濁物質とそれ以外の部分とを識別する。得られた2値情報から懸濁物質の大きさ、粒径分布などを計測してフロックの形成状態を連続的かつ定量的に判定する。

この判定結果に基づいて、凝集剤の注入量あるいはパドルの回転数などをコントロールし、フロックの形成状態を制御する。

3. 特長・効果

- (1) フロックの形成状態をオンラインで連続的かつ定量的に計測できる。
- (2) 水面下に撮像手段を設置して撮像し画像処理しているので、微小フロックから成長フロックまで精度よく計測することができる。

4. 提供技術

- 関連特許の実施許諾
- 特公平3-22935号
- 「水中に懸濁する物質の監視装置」

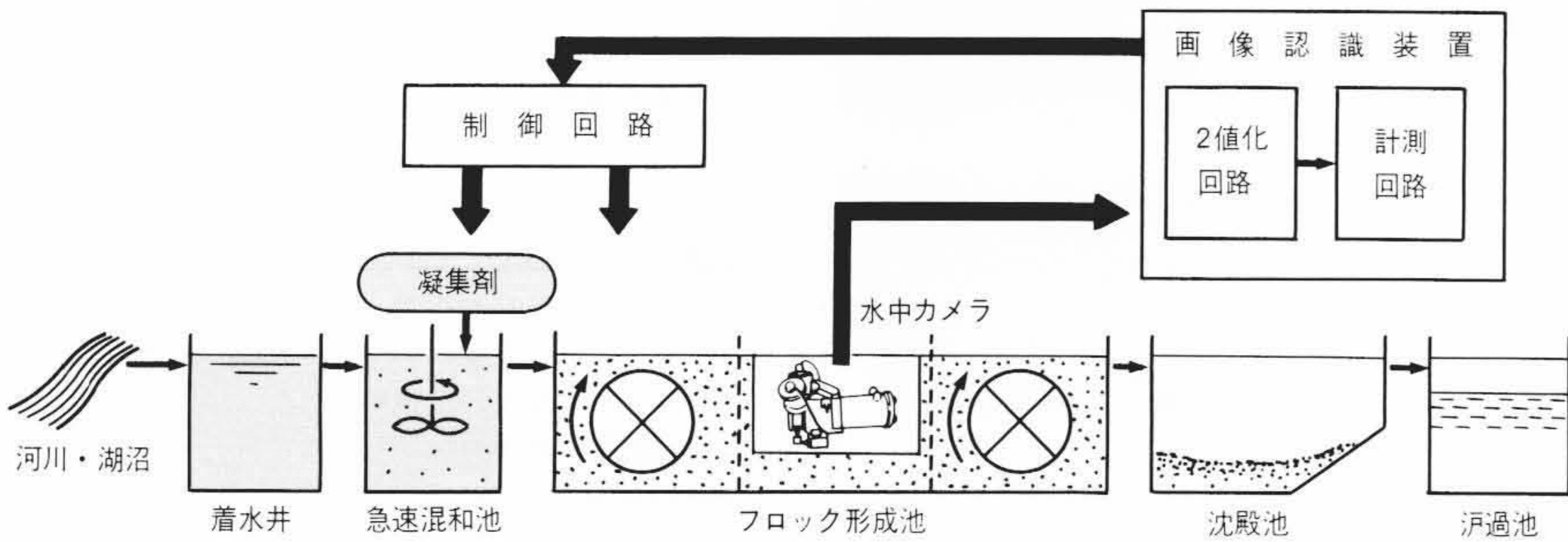


図1 フロック監視システム

日立製作所では、すべての所有特許権を適正な価格で皆さまにご利用いただいております。また、ノウハウについてもご相談に応じておりますので、お気軽にお問い合わせください。お問い合わせ先は… 株式会社 日立製作所 〒100 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号(新丸ビル) 電話(03)3214-3114(直通) 知的所有権本部 ライセンス第二部 特許営業グループ

日立評論 Vol.74 No.1

平成4年度の日立技術の展望

本年のご愛読を厚く御礼申し上げます。次号、平成4年新年号(Vol.74, No.1)は、恒例により「平成4年度の日立技術の展望」を特集いたします。

日立評論 Vol.74 No.2 予定目次

■特集 電力情報新制御技術

- 電力情報制御システムの高度化と将来展望
- 電力における最近のヒューマンインタフェースの動向
- 高速・高精細ヒューマンインタフェースCRT装置
- 電力における高度情報化を推進するネットワーク技術
- インテリジェント化が進む遠隔監視制御システム
- 電力システムへのニューロ・ファジィ技術の適用
- 給電自動化用ハイブリッドシステム
- 水力総合制御システム
- 変電所用監視制御運転保守支援システム
- 機能高度化が進む配電自動化計算機システム
- 火力発電所業務支援システム
- 電力系統解析シミュレータ
- 導入が進む運転訓練シミュレータ

日立 Vol.53 No.12 目次

- 特 集 英国で見る現代日本
- The Expert's Eye ダ・ヴィンチの描いた鏡面文字
- 技術史の旅<174> 上州の和算家たち
- 世界歴史ウォッチング 徹底検証! ムー大陸の謎
- テクノ・トークは休載します。



本誌は、再生紙を使用しています。

12月号特集取りまとめ 柏木雅彦

企画委員

- | | |
|-----|------|
| 委員長 | 三木義照 |
| 委員 | 高梨明紘 |
| 〃 | 菱沼孝夫 |
| 〃 | 守田恒 |
| 〃 | 鈴木勇 |
| 〃 | 石黒元 |
| 〃 | 山谷俊爾 |
| 〃 | 松永伍生 |
| 〃 | 久保征治 |
| 〃 | 岡野素男 |
| 〃 | 木下誠 |
| 〃 | 島崎恭彦 |
| 〃 | 木幡藤彦 |
| 幹事 | 遠藤洋 |

日立評論 第73巻第12号

- 発行日 平成3年12月20日印刷 平成3年12月25日発行
- 発行所 日立評論社 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地 ☎101-10
- 電話(03)3258-1111(大代)
- 編集兼発行人 伊藤俊彦
- 印刷所 日立印刷株式会社
- 定価 1部730円(本体709円)送料別 年間購読料 9,500円(送料含む)
- 取次店 株式会社オーム社 東京都千代田区神田錦町三丁目1番
- ☎101 電話(03)3233-0641(代) 振替口座 東京6-20018

© 1991 Hitachi Hyoronsha, Printed in Japan(禁無断転載) XZ-073-12